

体験の風を
おこそう

読書 手伝い 外遊び

～あなたのお子様の才能や個性を見出しませんか～



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

進めよう

「読書・手伝い・外遊び」

近年、子供たちの自然体験や仲間との遊び、地域活動の参加など様々な体験が減少し、学力、規範意識、体力が低下していると言われています。

子供が人間として成長し、社会の中で自立していくためには、幼児期から発達段階に応じたしつけや体験が必要であり、読書、手伝い、外遊びを幼児期から行うことによって、子供たちの知・徳・体バランスのとれた、心身ともに健やかな成長につながります。

本パンフレットで引用している調査は、国立青少年教育振興機構が実施したものです。

国立青少年教育振興機構では、子供の頃の体験と、大人になったときの資質・能力との関係について、調査・分析を行っています。

調査の詳細は、国立青少年教育振興機構ホームページをご覧ください。

国立青少年機構

検索

普段、お子さんにどんな体験をさせていますか？
イラストを見ながら普段の体験をチェックしましょう！



自然の中で活動させている



友達と遊ばせている



動植物の世話をさせている



絵本などの読み聞かせをしている



家族で行事を行っている



家のお手伝いをさせている

「体験の風をおこそう」運動[®]を推進しています

国立青少年教育振興機構では、
 社会全体で体験活動を推進する気運を高める運動を
 他の青少年団体と連携し進めています。
 近年、社会が豊かで便利になる中で、
 子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの
 体験が減少している状況をふまえ、
 子供たちの健やかな成長にとって、
 体験がいかに大切であるかを
 広く家庭や社会に伝えていきたいと思ひます。



「体験の風をおこそう」運動
 イメージイラスト
 (作:漫画家・松本零士氏)

体験の風

宿泊体験学習に! スポーツ合宿に! 研修に! 講演会に! ミーティングに!

青少年の体験活動をサポートする国立青少年教育施設が 全国に28か所!

国立オリンピック記念
 青少年総合センター(1か所)

国立青少年交流の家(13か所)

国立青少年自然の家(14か所)



National Institution For Youth Education
 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
 青少年教育研究センター / 総務企画部調査・広報課
<http://www.niye.go.jp> TEL 03-6407-7742



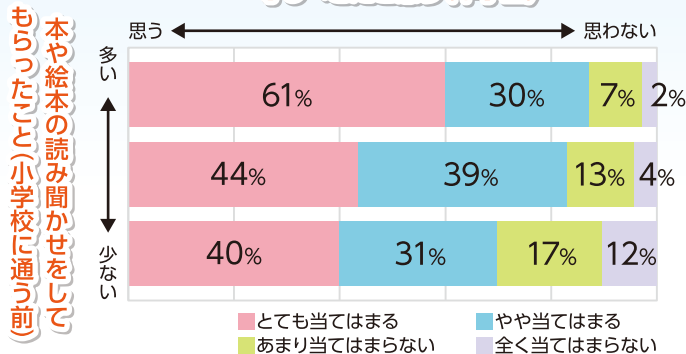
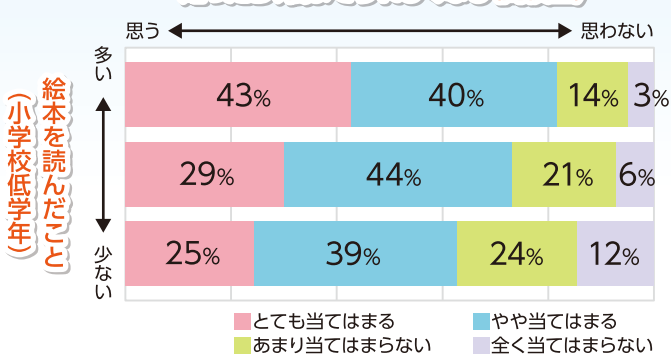
読書はコミュニケーション能力の基盤となります

子供の頃から、本に親しむことは豊かな人生を切り拓く上でとても大切です。特に絵本や読み聞かせなどは子供たちの情操を育み、考える力、コミュニケーション能力、社会性などを養います。

子供の頃(就学前から中学時代)に読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在も人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの社会性が高い傾向にあります。

友達がとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる(高校生)

交通規則など社会のルールは守るべきだと思う(中学生)

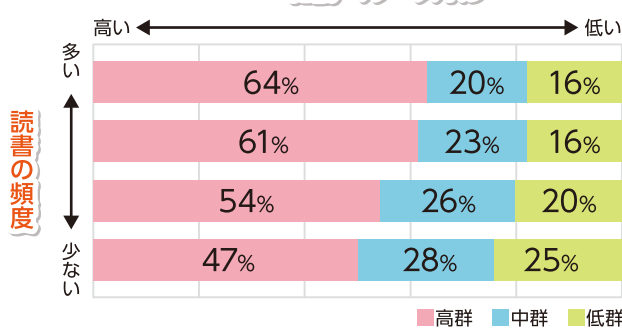
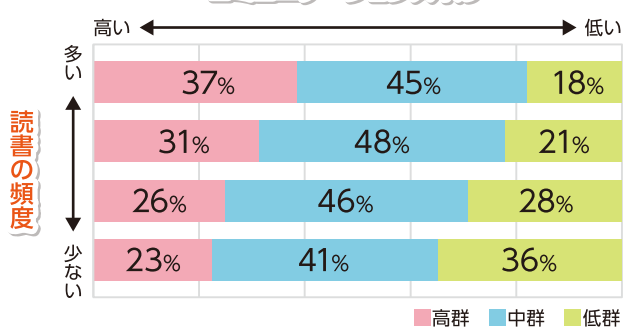


出典「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」

読書をする事が多い子供ほど、コミュニケーションスキルや、礼儀・マナースキルが高い傾向にあります。

コミュニケーションスキル

礼儀・マナースキル

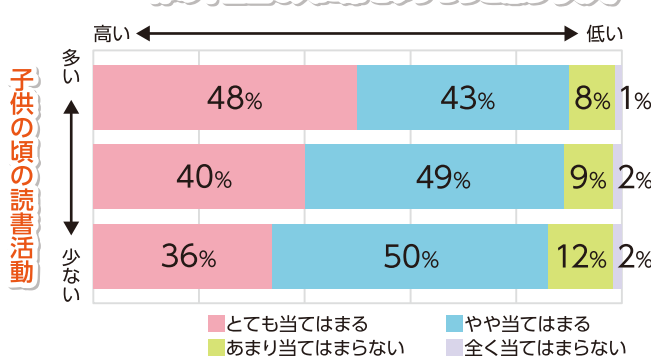
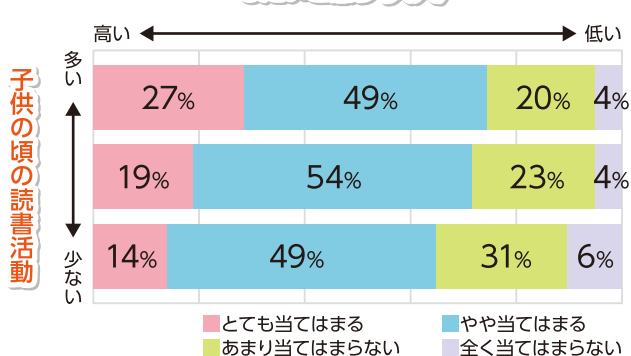


出典「子どもの生活力に関する実態調査」

また、子供と同様に、子供の頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高い傾向にあります。

できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う(大人)

電車やバスに乗ったとき、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずろうと思う(大人)



出典「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」

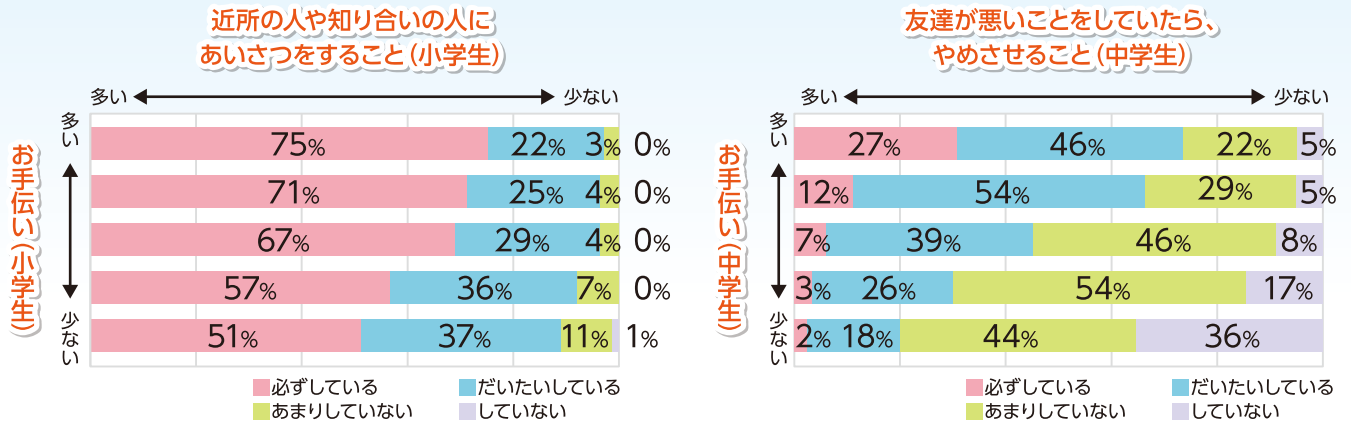
*グラフの数値は、小数点以下を四捨五入した数字を記載しています



お手伝いは道德観・正義感、自己肯定感を育みます

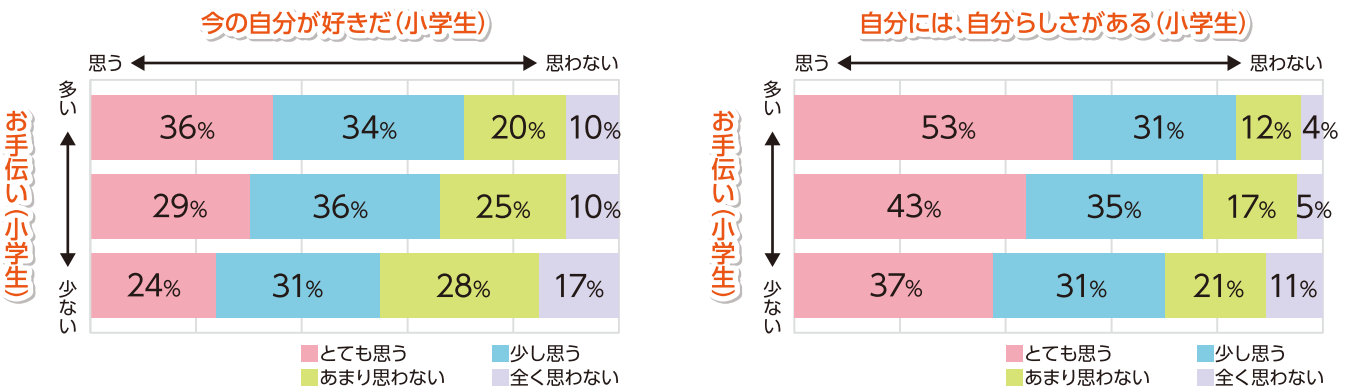
お手伝いは、自分の欲求を抑制し、自己肯定感を育成する上でも重要です。また、感謝され褒められることで自分が必要であることを認識させると脳科学でも言われています。

お手伝いをよくしている小学生や中学生ほど、道德観・正義感が高い傾向にあります。



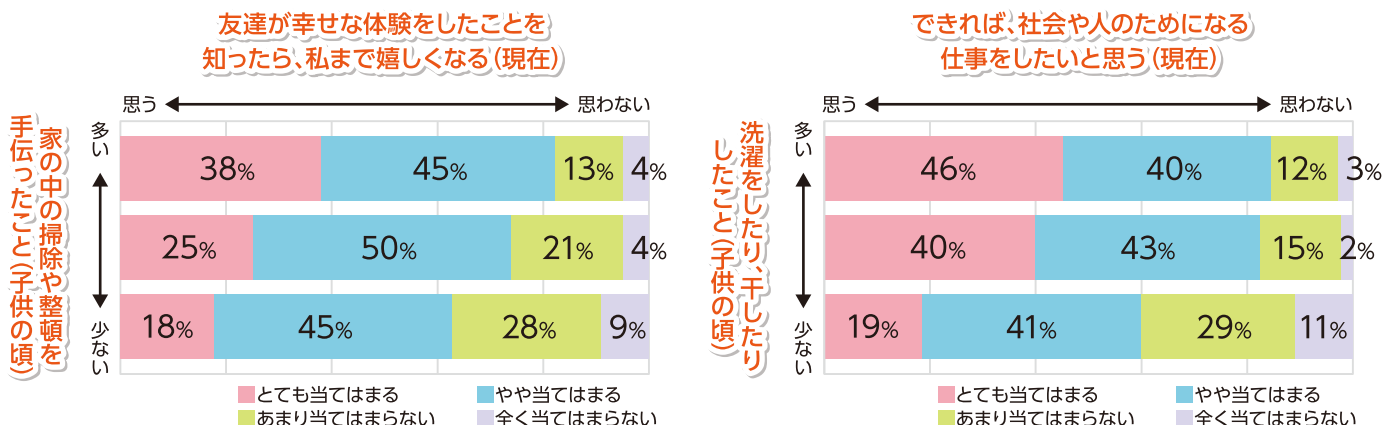
出典「青少年の体験活動等に関する実態調査」(平成26年度調査)

お手伝いをよくしている小学生ほど自己肯定感が高い傾向にあります。



出典「子どもの生活力に関する実態調査」

また、子供の頃(就学前から中学時代)にお手伝いをよくしていた大人ほど友達を思いやる気持ちや、社会や人のためになる仕事をしたいという意識が高い傾向にあります。



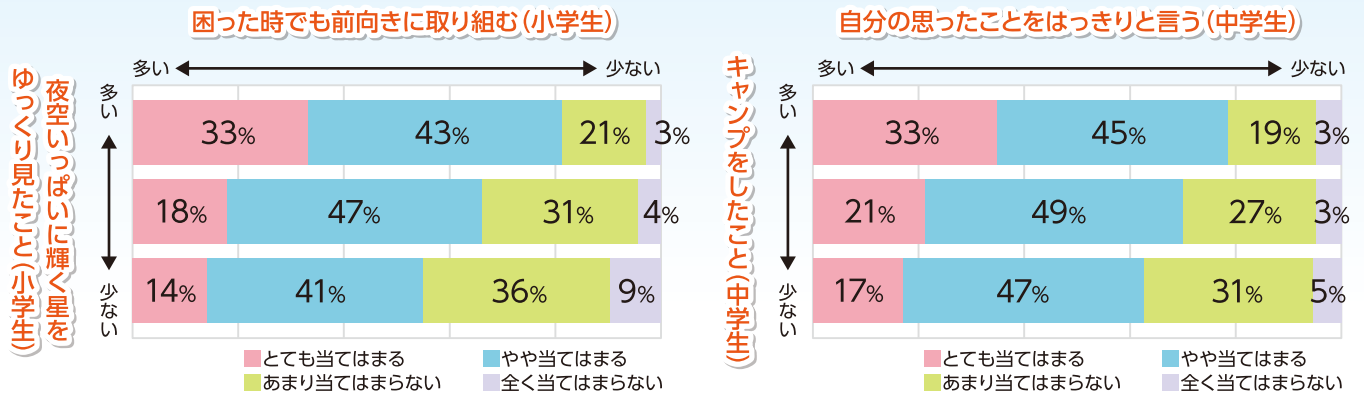
出典「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度調査)



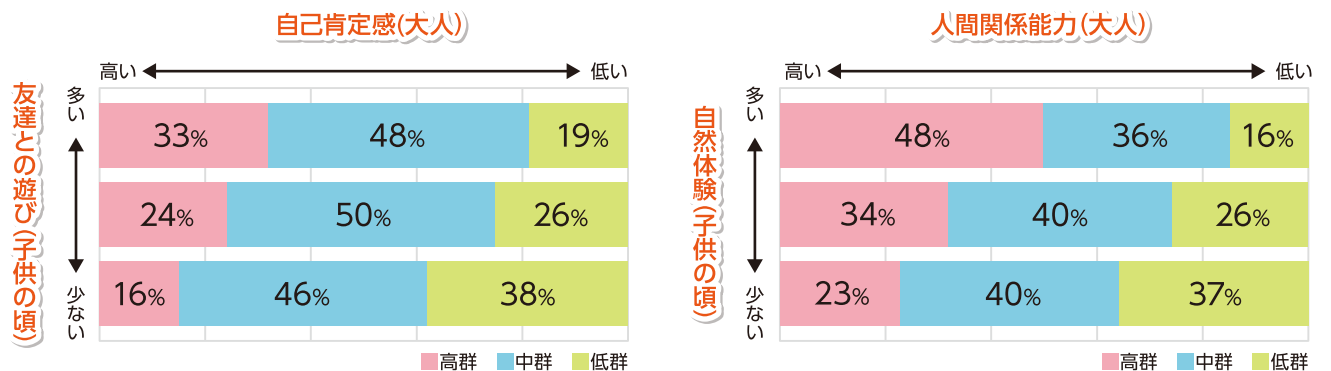
外遊びはチャレンジする意欲や規範意識を育みます

野外で思いきり身体を動かし、友達と遊んだり自然や動植物と触れ合うことは、子供の成長にとって重要なことです。外遊びは、仲間との接し方や社会的なルールが身につくとともに体力向上につながります。

外遊びが多い小学生や中学生ほど規範意識やチャレンジする力が高い傾向にあります。



子供の頃に友達との遊びや自然体験が多かった大人ほど、資質や能力が高い傾向にあります。



子供の頃に体験が豊富な大人ほど、その子供も体験が豊富な傾向にあり、また、自己肯定感が高い大人ほど、その子供も自己肯定感が高い傾向にあるなど、大人の体験や意識は子供に大きな影響を与えています。

